

第53回 信頼性・保全性・安全性 シンポジウム (53RMS)

テーマ デジタル変革時代と信頼性・保全性・安全性

RMS

開催日 2024年7月18日(木)～19日(金)

オンラインLIVE配信
(参加者全員アーカイブ配信つき)

6/21(金)
13:00まで
大口参加

最新情報更新中! Web をご覧ください <http://www.juse.jp/rms/>

53rms

検索

7/18(木)

基調講演

運用・保全部門からの
情報に基づくサステナビリティの実現
-変化に対応するレジリエンス-

田中 健次 氏

電気通信大学 産学官連携センター・特任教授
RMSシンポジウム組織委員会委員長



7/19(金)

特別講演

クルマの多様性と品質について

山本 圭司 氏

トヨタ自動車株式会社 Senior Fellow
Chief Information & Security Officer



7/18(木)

企画セッション(講演・パネル討論)

人材育成、技術伝承における
デジタル技術の活用

人材育成・技術伝承の現場でのデジタル技術の活用について、
これからの方向性を皆様と共に考えます。



野中 帝二 氏
トリニティ プログラム



久保 祐貴 氏
マツダ株式会社



土井下 健治 氏
コマツ



弓削 哲史 氏
防衛大学校

7/18(木)

チュートリアル講演 1

品質・信頼性・安全性の確保と
未然防止に向けて

鈴木 和幸 氏

電気通信大学名誉教授・特任教授



7/19(金)

チュートリアル講演 2

信頼性試験と市場信頼性予測
のためのワイブル解析

横川 慎二 氏

電気通信大学 i-パワーエネルギー・システム研究センター (iPERC) 教授



7/18(木)午後～7/19(金)

研究論文・事例報告発表

「質・量」共に充実した発表があるのは本シンポジウムならではの。今年も、信頼性・保全性・安全性の
技術を高めることに役立つ企業・大学・研究機関から合計26件の発表がそろいました。産・学の
実践的な技術や経験、ノウハウ、研究成果や最新事例が一堂に集結しました!

概要

7/18(木) 基調講演、企画セッション、前年度RMS優秀論文(事例)賞、奨励論文(発表)賞、技術貢献賞/
フォトコンテスト 表彰、チュートリアル講演、研究論文・事例報告発表

7/19(金) 研究論文・事例報告発表、チュートリアル講演、特別講演

※詳細は中面をご覧ください。

日程 2024年7月18日(木)~19日(金)

形式 オンラインLIVE配信

テーマ デジタル変革時代と信頼性・保全性・安全性

■プログラム(敬称略) 発表時間 持ち時間は1件につき30分(発表20分、質疑応答10分) 一般発表 26件(研究論文15件、事例報告11件) (2024年7月9日現在)

会場		A会場 総合司会:久保 秀之 ユーロフィンFQL(株)品質技術事業部 評価・解析グループ アソシエイト/RMSシンポジウム副委員長					
9:30~9:35		【主催者挨拶】 一般財団法人日本科学技術連盟 理事 島田 尚徳					
9:35~10:20		【基調講演】 運用・保全部門からの情報に基づくサステナビリティの実現ー変化に対応するレジリエンスー 田中 健次 電気通信大学 産学官連携センター・特任教授/RMSシンポジウム組織委員会委員長					
10:20~10:30		準備					
10:30~12:30		【企画セッション(講演・パネル討論)】 人材育成、技術伝承におけるデジタル技術の活用 講演1 デジタル技術を用いた技術・技能伝承ー暗黙知化した属人作業の伝え方ー 野中 帝二 講演2 マツダの金型製作部門における技能伝承の取り組み 久保 祐貴 (パネリスト) 野中 帝二 トリニティプログラム 代表 久保 祐貴 マツダ株式会社 ツーリング製作部 ツーリング技術グループ アシスタントマネージャー 土井下 健治 コマツ 開発本部 デジタルイノベーションセンター デジタル第一開発グループ チームマネージャ (コーディネーター) 弓削 哲史 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授/RMSシンポジウム組織委員会副委員長					
12:30~13:30		昼食休憩(表彰者記念撮影)					
13:30~13:50		【表彰式】 2023年度(第52回)RMS優秀論文/事例賞、奨励論文/発表賞、技術貢献賞 表彰 賞状・副賞の授与: 田中 健次 電気通信大学 産学官連携センター・特任教授/RMSシンポジウム組織委員会委員長 選考理由について: 弓削 哲史 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授/RMSシンポジウム論文小委員会委員長					
13:50~14:00		準備					
7月18日(木)		A会場		B会場		C会場	
Session	【Session 1】 ヒューマンファクタモデリング	司会者(補佐)	【Session 3】 データ利活用による運用支援	司会者(補佐)	【チュートリアルセッション】		
14:00~14:30	1-1 【研究論文】 設備管理知識モデルの記述と活用 大上 雅哉 JFEテクノロジー(株)	伊藤 誠 筑波大学	3-1 【事例報告】 ツース脱落・転石検知支援システムによるお客さまの現場の生産性・安全性向上 江本 遠平 (株)小松製作所	田村 信幸 法政大学	【講演1】 14:00~15:00 品質・信頼性・安全性の確保と未然防止に向けて 鈴木 和幸 電気通信大学名誉教授・特任教授 司会: 門田 靖(株)リコー		
14:30~15:00	1-2 【研究論文】 主要価値類似性を考慮した太陽光発電に対する信頼感因果モデルの検討 桐山 大輝 電気通信大学	(田中)	3-2 【研究論文】 ひずみゲージを利用した簡易な列車位置検知手法による地域鉄道の安全性・信頼性向上の取り組み 谷口 茂 (株)京三製作所	(岡)			
15:00~15:15		準備・休憩					
Session	【Session 2】 信頼性設計技術	司会者(補佐)	【Session 4】 データ利活用による不具合予測	司会者(補佐)			
15:15~15:45	2-1 【事例報告】 組立手順書のレイアウト最適化 角屋 勇佑 (株)IH	門田 靖 (株)リコー	4-1 【事例報告】 研削砥石寿命予測技術の確立に向けてー機械学習を用いた砥石切れ味変化の定量化検討ー 佐藤 正秋 トヨタ自動車(株)	角谷 幹彦 (株)アイシン			
15:45~16:15	2-2 【事例報告】 画像測定自動化による解析工数低減 祢宜田 悠平 (株)アイシン		4-2 【事例報告】 振動解析を用いた装備品の不具合予測 曾原 義博 全日本空輸(株)				
16:15~16:45	2-3 【研究論文】 Bayesian Active Learningを用いたリジッドアックスサスペンションのセットベース設計法 白石 英樹 トヨタ自動車(株)	(藤本)	4-3 【事例報告】 稼働データを利活用したプラント稼働効率指標改善手法の検討結果報告 松田 一真 (株)IH	(土井下)			
16:45~17:30		【ネットワーキング】 発表者×司会者×組織委員交流会(非公開)					
7月19日(金)		A会場		B会場		C会場	
Session	【Session 5】 加速試験手法	司会者(補佐)	【Session 8】 データ利活用と保全	司会者(補佐)			
9:30~10:00	5-1 【事例報告】 HALT試験事例紹介 福田 貴之 エスバック(株)	佐伯 光章 (株)エスバック	8-1 【研究論文】 DHC-8-400型機のEngine Driven Pumpの予知保全 重富 貞成 全日本空輸(株)	横川 慎一 電気通信大学			
10:00~10:30	5-2 【研究論文】 有限要素法解析を用いた電子機器の耐振性評価手法 中道 徳馬 (株)安川電機	久保 秀之 (株)エスバック	8-2 【研究論文】 電力網のパフォーマンス評価とレジリエンス解析 藤倉 光太郎 防衛大学校	(角谷)			
10:30~11:00	5-3 【事例報告】 マグネット接着評価のための信頼性評価方法の開発 品部 慎治 (株)安川電機	(久保)	8-3 【研究論文】 保証期間内の状態監視を考慮したシステムに対する小修理を伴うブロック取り替え方策について 田村 信幸 法政大学				
11:00~11:15		準備・休憩					
Session	【Session 6】 信頼性技術の応用展開	司会者(補佐)	【Session 9】 データ利活用と評価	司会者(補佐)	【チュートリアルセッション】		
11:15~11:45	6-1 【研究論文】 フリップチップ実装におけるプラズマ表面改質効果の動的水滴接触角法による評価 有田 潔 西日本工業大学	宮本 秀範 (株)エスバック	9-1 【研究論文】 サンプルサイズと母集団を網羅する割合、および信頼水準の関係性の検討 河嶋 隆則 宇宙航空研究開発機構	田村 信幸 法政大学	【講演2】 11:15~12:15 信頼性試験と市場信頼性予測のためのワイプル解析 横川 慎二 電気通信大学 トワードエネルギーシステム研究センター 教授 司会: 藤本 直伸 内藤電誠工業(株)		
11:45~12:15	6-2 【研究論文】 静電式インクジェットの描画サイズの安定化と微小化の検討 石田 雄二 西日本工業大学	(門田)	9-2 【研究論文】 協調知識情報を用いたベイズ信頼性解析における事前分布の設定方法 貝瀬 徹 兵庫県立大学大学院	(弓削)			
12:15~13:15		昼食休憩					
Session	【Session 7】 信頼性安全性試験の検証	司会者(補佐)	【Session 10】 安全な組織文化の形成	司会者(補佐)			
13:15~13:45	7-1 【事例報告】 リチウムイオン電池の発煙発火リスク検証 中西 俊介 ユーロフィンFQL(株)	佐々木 亮 (株)安川電機	10-1 【研究論文】 JR福知山線脱線事故のシステム論からの再検討ー組織事故予防に対する共有メンタルモデルの効果ー 山口 修司 筑波大学大学院	岡田 孝雄 宇宙航空研究開発機構			
13:45~14:15	7-2 【事例報告】 市場環境下の車載電子部品のはんだ熱疲労予測法の適正化 西森 久雄 トヨタ自動車(株)		10-2 【事例報告】 安全文化(Positive Safety Culture)の醸成に向けた取り組み 日比 啓太郎 全日本空輸(株)				
14:15~14:45	7-3 【研究論文】 パワーサイクル試験と過渡熱解析によるSiパワー半導体の寿命予測ーダイオードの構造関数取得に基づく劣化推定ー 岡村 耕平 ヤンマーホールディングス(株)	(岡)	10-3 【研究論文】 組織文化の3レベルに着目した安全確保とトラブル未然防止 鈴木 和幸 電気通信大学	(井内)			
14:45~15:00		準備・休憩					
会場		A会場					
15:00~16:30		【特別講演】 クルマの多様性と品質について 山本 圭司 トヨタ自動車株式会社 Senior Fellow, Chief Information & Security Officer 司会: 弓削 哲史 防衛大学校 モデレーター: 久保 秀之 ユーロフィンFQL(株)					
16:30~16:40		【クロージング】 弓削 哲史 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授/RMSシンポジウム組織委員会副委員長					
16:40~17:25		【ネットワーキング】 発表者×司会者×組織委員交流会(非公開)					

※ プログラムは都合により変更となる場合がございます。また登壇者・発表者の都合により講演・発表がキャンセルになる場合もあります。

運用・保全部門からの情報に基づくサステナビリティの実現 —変化に対応するレジリエンス—

田中 健次 氏 電気通信大学 産学官連携センター・特任教授/RMSシンポジウム組織委員会 委員長



田中 健次 氏

ききどころ サステナビリティの実現には、信頼性設計と運用・保全活動との連携が極めて重要です。昨年は、設計者の立場から運用を考慮した高信頼性確保のための工夫などを紹介しました。本年は、運用活動側から、設計時には予測が難しい事象や適応的対応に関する運用時情報を設計部門にフィードバックすることで未然防止につなげる仕組み、それらを有効に利用するための仕掛けなどについて考えます。そこでは、システム視点からの取り組みや、関連する人の中でのコミュニケーション、運用担当者の心理的安全性の確保など、多様な観点から検討を進める必要があることも紹介いたします。

【講演者紹介】

京都大学 理学部数学科 卒業

東京工業大学 大学院総合理工学研究科システム科学専攻 博士課程修了、理学博士

1995年 電気通信大学 大学院情報システム学研究科 助教授

1999年 University of Manchester(UK) (Prof.J.Reason) 在外研究員

2004年 電気通信大学 大学院情報システム学研究科 教授

2023年 電気通信大学名誉教授/産学官連携センター 副センター長・特任教授

この間、米国ニューヨーク州立大学G. Klir 教授の下でシステム論を、英国マンチェスター大学 J. Reason教授の下で組織のリスクマネジメント論を研究。信頼性へのシステム論的アプローチや、行動心理を取り入れたリスクマネジメントなど、融合的な研究を推進し、プラント制御、医療安全、自動運転などの分野で人間・機械系の設計・運用に展開している。

【研究論文や著書(代表的なもの)】

- ・『入門信頼性—技術者がはじめて学ぶ—』(日科技連出版, 2008年)
- ・『システムの信頼性と安全性』(朝倉書店, 2014年)
- ・Systemic Approach to Reliability and Safety Management Incorporating Uncertainty, Systems ResearchII, pp.241-259(Springer, 2022)

【その他】 学会活動：日本品質管理学会(理事、監事)、医療の質・安全学会(理事)

IEEE (Reliability Society, Japan Chapter-Vice Chair 2003~2005)

表 彰：1993年 日本プラントメンテナンス協会PM優秀論文賞(「創造活動による自律的適応保全の体系化」)

2002年 日本設備管理学会論文賞(「重複型システム分割による設備管理」)

2012年 第41回「信頼性・保全性シンポジウム」特別賞(「安全保証と危険回避の使い分けに関する一考察」)

2013年 日本信頼性学会2012年度優秀記事コラム賞(「新聞報道は事故をどう報じているか」)

2015年 日経品質管理文献賞(「システムの信頼性と安全性」)

クルマの多様性と品質について

山本 圭司 氏 トヨタ自動車株式会社 Senior Fellow, Chief Information & Security Officer



山本 圭司 氏

ききどころ より早く、より遠くに、より快適に、そしてより環境にやさしく、より安全に。クルマに求められる性能は時代と共に変わり、近年のCASEの進展でクルマは工業製品から社会システムの一つに位置づけられるようになりました。クルマの構造は大きく変化しそれを支えてきたのがエレクトロニクス、半導体、ソフトウェア、そして通信技術。一方では、カーボンニュートラルが喫緊の課題となる今日、マルチパスウェイの考え方によりクルマは益々多様化し、クルマに求められる品質の守備範囲も広がっています。本講演では、クルマの品質を「モノの品質」、「コトの品質」、「安心の品質」の3つに区分し、今後取り組むべきことを技術のトレンドと合わせて整理していきます。

【講演者紹介】

1987年トヨタ自動車株式会社に入社。

一貫してカーエレクトロニクスの研究開発、商品開発に従事。

2016年 常務理事就任後、2017年 常務役員、2019年 執行役員・コネクティッドカンパニー Presidentとして、G-BOOK、T-Connectを代表とするつながるサービス、マルチメディア車載機及びセンターの開発と事業運営やITSなどの交通社会システムの企画、渉外、開発を統括。

2023年より現職。Chief Information & Security Officerとして、情報・通信領域を統括。

【その他】 1993年7月 第22回信頼性・保全性シンポジウムにおいて推奨報文賞受賞

人材育成、技術伝承におけるデジタル技術の活用

企画概要

人口構造の変化により様々な問題が発生すると懸念されている「2025年問題」が目前に迫ってきました。その中でも労働力人口の減少はあらゆる産業に大きな影響を与えていると考えられています。各企業は生産性を維持するために、機械による自動化の推進とともに、新入社員の効率的な教育、あるいは熟練者の技術・技能やノウハウを次世代に効率的に継承することが急務となっています。そのような場面でICTを活用して効率的に人材育成や技術伝承をおこなう仕組みづくりが注目されています。一方で、デジタル社会、特にAIの発展と浸透によりHow toのみを効率よく学ぶ習慣が定着し、若手技術者の考える力が弱くなった、対応能力が低下しているといった、デジタル化の弊害も指摘されるようになってきました。本シンポジウムではこのような人材育成・技術伝承の現場でのデジタル技術の活用について企画セッションを開催し、すでに取り組みされている企業の技術者や、人材育成・技術伝承の推進支援をされている方を講師にお呼びし、人材育成、技術伝承の分野のこれからの方向性、注意すべき事項などを皆様と共に考えたいと存じます。パネラーとして2名の講師をお呼びいたしました。各々の講演もさることながら、講演終了後はパネルディスカッションを予定いたしておりますので、皆様も参加して活発な議論を期待いたしております。

【パネリスト】

講演1『デジタル技術を用いた技術・技能伝承 -暗黙知化した属人作業の伝え方!-』

野中 帝二氏 トリニティプログラム 代表

講演2『マツダの金型製作部門における技能伝承の取り組み』

久保 祐貴氏 マツダ株式会社 ツーリング製作部 ツーリング技術グループ アシスタントマネージャー

土井下 健治氏 コマツ 開発本部 デジタルイノベーションセンタ デジタル第一開発グループ チームマネージャ

【コーディネーター】

弓削 哲史氏 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授 /

RMSシンポジウム組織委員会副委員長



野中 帝二氏



久保 祐貴氏



土井下 健治氏



弓削 哲史氏

チュートリアルセッション 講演1 7月18日(木) 14:00~15:00

講演2 7月19日(金) 11:15~12:15

トラブル知らず! 品質を生み出す「信頼性の技術」

スタッフから技術者、マネージャーまで「いまさら聞けない、知っておきたい、なんとなく知っているけれど正しく知らない」をズバリ解決! 本シンポジウムだから実現できたスペシャル企画の2講演!

講演1

品質・信頼性・安全性の確保と未然防止に向けて

鈴木 和幸氏 電気通信大学名誉教授・特任教授



3.11福島第一原子力発電所の事故、本年1月2日羽田空港JAL機・海保機の衝突事故などを初めとする種々のトラブルは品質管理の基本と信頼性工学の知識があれば防げていた可能性が高いものが多い。本講演では、これらの例から品質・信頼性・安全性を確保し、トラブルの未然防止を如何に図ればよいか、そのエッセンスを紹介します。また、安全性に関しては組織文化の果たす役割が大きい。人は誰でもエラーをする、問題ない組織はあり得ない、を出発点とする未然防止の構築へのあるべき姿を紹介します。

講演2

信頼性試験と市場信頼性予測のためのワイブル解析

横川 慎二氏 電気通信大学

iパワードエネルギー・システム研究センター(iPERC)教授



信頼性工学のなかでも最もよく用いられているワイブル解析について、基礎から解説します。学会等で報告されている先端パワー半導体デバイスの信頼性試験の分析例や、市場故障データに基づく初期故障の評価・予測・スクリーニング効果の見積などの事例を挙げて、これから学ぶ方だけでなく、現在信頼性を多能している方々にも参考になる内容について解説します。

表彰 7月18日(木) 13:30~13:50

2023年度(第52回) RMS優秀報文(事例)賞、奨励報文(発表)賞、学術／技術貢献賞／フォトコンテスト 表彰

賞状・副賞の授与 田中 健次氏 電気通信大学 産学官連携センター・特任教授 / RMSシンポジウム組織委員会委員長

選考理由について 弓削 哲史氏 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授 / RMSシンポジウム報文小委員会委員長

発表報文(事例報告)の中から参加者の投票をもとに選出され、①創意性、②実用性、③完結性、④利用価値、⑤普遍性、⑥発表方法、⑦発表データの利用率の各項目で評価されます。2023年度の受賞報文・事例報告は次のとおりです。

受賞(発表セッション順、所属は受賞当時、敬称略)

優秀事例賞(Best Application Award)

・フライトデータと機械学習を活用した航空機ブリードシステムの予知保全 谷口 誠氏(全日本空輸(株))

奨励報文賞(Incentive Paper Award)

・Acoustic Emission (AE)法を活用した接着材料の微小剥離不具合予測 長塚 祐真氏(ソニー(株))

奨励発表賞(Incentive Application Award)

・電気-光サンプリング技術を用いたTime Domain Reflectometry法による高密度半導体パッケージの故障解析 前原 泰秀氏(ルネサス エンジニアリングサービス(株))

・学習情報を最適化した異常診断手法の適用事例報告 佐藤 収氏(株)IH)

▶各賞受賞者決定紹介URL: <https://www.juse.jp/rms/52/award/>

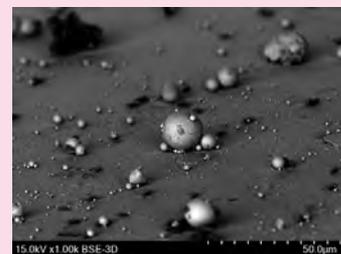
https://www.juse.jp/rms/52/photo_contest/prize/

フォトコンテスト優秀賞

「小さな星の地表」

岡村 耕平氏

(ヤンマーホールディングス(株))



「大口参加申込」をご利用ください。

社員教育にも最適です。

- 組織の信頼性・保水性・安全性の意識向上を図る
- 技術者、研究者の技術教育として活用する

お申込みは
6/21(金)13:00まで

1. 参加費440,000円(税込)で、1社から500名様まで参加可能な制度です。
2. シンポジウム終了後、一定期間内の「アーカイブ配信」で再聴講できます。
3. 請求書は、部門ごとに分けて発行することもできます。
※ 請求書送付先は一カ所とさせていただきます。「通信欄」に以下のように記載してください。
例) 品質保証部 220,000円(税込) 人事部 220,000円(税込)
4. 同一法人格内であれば、例えば本社だけでなく国内・海外拠点の社員の方も上限人数以内であれば、上記定額料金でご参加いただけます。
5. 「聴きたい講演だけ」、「聴講可能な時間帯だけ」の一部の参加もOKです。
6. 圧倒的なコストパフォーマンス! まとまった人数で参加できるので、一人当たりの教育コストをグッとおさえられます。
※ 11名のご参加費用で、おトクにご利用いただけます 例)通常一般参加費41,800円を11名参加の場合…合計459,800円

●参加申込方法

- 通常の「申込フォーム」からお手続きいただけます。参加区分で「大口参加」を選択してください。申込手続き後、自動返信でメールが送付されますが、日科技連から、個別に改めてご連絡を差し上げます。誠に恐れ入りますが、ご連絡をお待ちください。

お申し込みから参加までの流れ

4月中旬
～7月11日(木) 13:00まで

RMSシンポジウムWebサイトで受付しています。
➡ <https://www.juse.jp/rms/>

※当シンポジウムWebサイト掲載の専用サイトで当日視聴で使用する端末(PC推奨)で事前テストを実施の上、お申込みください。

※お申込後、日科技連・受付担当から自動返信メール(受付完了通知/開催通知)が届きます。

※自動返信メールが届かない場合は、受付担当(regist@juse.or.jp)までご連絡ください。

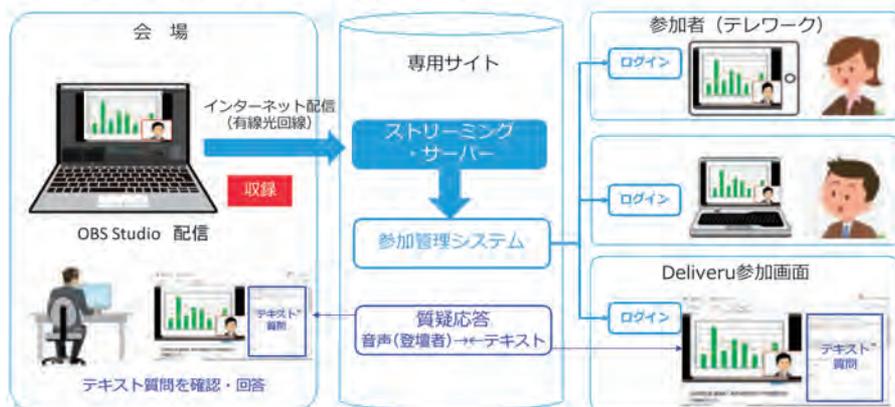
7月上旬～

日科技連・受付担当から電子請求書発行(PDFダウンロード形式)、
連絡担当者/参加者にご送付します。

開催3営業日前
7月12日(金)予定

参加者の方へ
視聴URL、ID、パスワードをメールでご送付します。

- ・無観客で、登壇者自身がパソコンで資料をめくりながら講演・発表を行い、同時にライブ配信する。
- ・参加者からの質問はテキストで受付、音声で回答する。



7月18日(木)～7月19日(金)
シンポジウム当日(ライブ配信)

ご質問はチャットでお受けし、
口頭で回答する予定です。

参加のおすすめ

年に一度の信頼性・保全性・安全性に関するビッグイベント! —“ものづくり日本”を支える、産・学の最新事例が一堂に集結します—

1971年に開始した当シンポジウムは、いろいろな分野の信頼性・保全性・安全性に携わるエンジニア、マネージャー、研究者の方々にご参加いただき、実践的な技術・経験・研究成果を共有し、意見交換・討議などを行うとともに、基調講演、特別講演、特別企画セッションなど、多彩な人的交流と情報交換の場を提供することを主眼として開催しています。貴社の信頼性・保全性・安全性活動をより一層発展させるためにも、ぜひこの場をご活用くださいますようお願いいたします。

信頼性・保全性・安全性シンポジウム委員会 組織委員一同

信頼性・保全性・安全性シンポジウム 組織委員会

五十音順、敬称略

■委員長:	田中 健次	電気通信大学 産学官連携センター・特任教授				(2024年4月3日現在)
■副委員長:	弓削 哲史	防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授				
	久保 秀之	ユーロフィンFQL(株) 品質技術事業部 評価・解析グループ アソシエイト	角谷 幹彦	㈱アイシングループ品質本部 TOM推進部 業務品質改善室データ活用推進グループグループ長		
■委員:	井内 秀明	NECプラットフォームズ(株) CS品質推進部門 品質推進統括部 品質推進グループシニアマネージャー	田村 信幸	法政大学 理工学部 経営システム工学科 准教授		
	伊藤 誠	筑波大学 システム情報系 教授	土井下健治	コマツ 開発本部 デジタルイノベーションセンター デジタル第一開発グループ チームマネージャ		
	岡 利春	㈱IHI 空領域 テクノロジートランスフォーメーション推進部 主査	長塚 豪己	中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授		
	岡田 孝雄	宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 次世代航空イノベーションハブ 主任研究開発員	藤本 直伸	内藤電誠工業(株) デバイスカンパニー 評価解析事業部 技術顧問		
	門田 靖	㈱リコー 先端技術研究所 IMD研究センター 第四研究室 シニアプロフェッショナル	宮本 秀範	ソニーセミコンダクタソリューションズ(株) 品質環境部門 シニアリアルタイムエキスパート		
	黒木 英昭	全日本空輸(株) 顧問	横川 慎二	電気通信大学 トワードエネルギー・システム研究センター (PERC) 教授		
	佐伯 光章	ルネサスエレクトロニクス(株) 品質保証グループ 品質保証統括部 FAラボラトリ 課長				
	佐々木 亮	㈱安川電機 技術開発本部 信頼性技術部 信頼性技術担当部長				
	佐々木成実	トヨタ自動車(株) カスタマーファースト推進本部 TOM推進部 データ人材開発室 戦略グループ 主幹				
■顧問:	堀籠 教夫	東京海洋大学名誉教授	木村 忠正	電気通信大学名誉教授	佐藤 吉信	ナフテスコ(株) 嘱託
	益田 昭彦	信頼性七つ道具 (R7) 実践工房 代表	向殿 政男	明治大学名誉教授	鈴木 和幸	電気通信大学名誉教授・特任教授
					宮村 鐵夫	中央大学名誉教授

後援: 日本信頼性学会

協賛: 公益社団法人応用物理学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人高分子学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人日本電子部品信頼性センター、一般社団法人日本品質管理学会、IEEE Reliability Society Japan Joint Chapter、ナノテスト学会 (順不同)

参加要領

●参加費 (大口参加申込は6/21(金)13:00申込分まで)

- 税込・1名様分 (1IDにつき1名様が視聴可・複数名での視聴はできません)

一般	41,800円
日科技連賛助会員 / 後援・協賛学協会会員	39,600円
発表者 (本人のみ)	5,500円
共同執筆者 (発表1件につき1名まで)	19,800円
2024年度 RQ研究会 参加者	19,800円
「信頼性技術者」登録者	19,800円

- 税込・1社*あたり5名様まで (1IDにつき1名様視聴可、5ID配付)

小口参加 一般・日科技連賛助会員ともに	125,400円
---------------------	----------

- 税込・1社*あたり500名様まで (1IDで500名様まで複数名での視聴可)

大口参加 一般・日科技連賛助会員ともに	440,000円
---------------------	----------

*適用範囲は同一法人格、かつ同一窓口から一括でのお申込みの場合に限ります。500名を超えての視聴のご要望がございましたら、お気軽にお問合せください。

●参加費支払い方法

請求書記載の指定口座へ、請求書発行後2か月以内にお振込みください (請求書は、7月上旬から電子請求書 (PDFダウンロード形式) 送付開始予定)。

●お申込みのキャンセルについて

正式な参加登録後、お客様のご都合でお申込みをキャンセルされる場合には、大変恐縮ながら以下の通りキャンセル料が発生いたします。

シンポジウム開催日 (7/18) の

- 7営業日前~1営業日前17:00までのキャンセル

..... 参加費の 50%

- 1営業日前17:00以降のキャンセル

または事前のご連絡がなかった場合 参加費の 100%

●内容に関するお問い合わせ先

一般財団法人 日本科学技術連盟 「53RMS」担当
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1
TEL:03-5378-9850
E-mail:rms-sympo@juse.or.jp

●申込みに関するお問い合わせ先

一般財団法人 日本科学技術連盟 セミナー受付
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1
TEL:03-5378-1222
E-mail:regist@juse.or.jp

(ご注意)

- 参加者以外、資料の配付はいたしません。また、資料のみの頒布はいたしませんので、ご了承ください。
- イベント終了後、本シンポジウム参加者限定で、登壇者の許可が得られた講演・発表について、公開~1週間程度アーカイブ公開いたします。
- 原則2日間通してのご参加をお願いいたします。参加費は、1日のみのご参加でも全額申し受けます。また、当日欠席されてもご返金いたしかねますのでご了承ください。
- 資料事前ダウンロードサービス開始 (7月上旬予定) 以降のキャンセル (ご返金) は致しかねますので代わりの方のご参加をお願いいたします。
- シンポジウムの日程・開始/終了時刻・プログラム等は、都合により変更する場合があります。また、諸般の事業によりシンポジウムの開催を中止することがありますので、予めご了承ください。
- 「ネットワーキング」は発表者限定の非公開イベントです。オンライン配信はございません。